

UNIVERSITY CONSORTIUM KYOTO



公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

URL <http://www.consortium.or.jp>

会報
No.44
2013.4

特集1

藝術立国

—京都造形芸術大学の挑戦—

特集2

課外活動での理論の実践 学生間で進める国際交流

—「京都学生祭典×京都国際学生映画祭」

実行委員対談—

藝術立国

—京都造形芸術大学の挑戦—



【京都造形芸術大学】〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

発行／公益財団法人 大学コンソーシアム京都 事務局／〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下るキャンパスプラザ京都 TEL:075-353-9100 FAX:075-353-9101

ユメへとつながる 13 学科。

アート・デザインの力で社会を動かす人材を育成することを教育目標に掲げ、“社会と芸術”その関わりを重視した芸術教育を推進。専門分野の教育だけを行うのではなく、学科を超えたグループワークや実際の現場での仕事を通して、社会性を備えた表現者を育成します。アーティスト・クリエイターとして現役の教員も多く、第一線で活躍する中で培ったノウハウを、学生に余すところなく伝えています。「伝統」と「前衛」という二つの顔を併せ持つ、「京都」という都市を抛りどころに、美術、デザイン、映画、演劇、文芸などをカバーした 13 学科 21 コースを設置した総合芸術大学です。

学 科 紹 介



美術工芸学科

古来から人間の進化に重要な役割を果たした「絵を描く」ということ。私たちの祖先は絵を描くことで経験から未来を予測する力を得てきました。この学科では、困難に満ちた世界を見つめ、美術と工芸というステージを通じて表現に挑戦し続けるたくましい人材を育成します。

日本画コース / 油画コース / 現代美術・写真コース / 染織テキスタイルコース / 総合造形コース



マンガ学科

今や現代芸術の一分野を担うまでに隆盛した「マンガ」。そのマンガ制作の基礎やテクニック、読みやすい画面構成、魅力的なキャラクター造形、読者を引き込むストーリーの組み立て方など、マンガ業界の第一線で活躍するプロたちが細やかな表現や技法を徹底的に指導します。

ストーリーマンガコース



キャラクターデザイン学科

キャラクターデザインは世界観まで含めた創造行為。イラストや立体造形、アニメーションの制作を行いながら企画や演出、ストーリーの作りを学び、CG 技術をはじめこれまでにない表現方法を模索します。また放送局と連携し短編の映像制作に関わることで実践力も養います。

キャラクターデザインコース



情報デザイン学科

本、Web、イラスト、映像など、身の回りの様々な「情報」に関するデザインを学びます。グラフィックや映像、写真、版画や立体造形など、多彩なメディアを用いた表現技術の習得はもちろん、実社会で通用するクリエイションとプレゼンテーションの能力を徹底的に鍛えます。

情報デザインコース / イラストレーションコース



プロダクトデザイン学科

注射針から自動車まで私たちが使うすべてのモノやシステムを創造するプロダクトデザイン。家電や自動車、什器等の工業製品と、生活用品や家具など生活に密着した製品を対象に、モノ創りに関わるコンセプトの立案からモックアップを作成する為の専門技能までを学びます。

プロダクトデザインコース



空間演出デザイン学科

ショッピングインテリア、ディスプレイ、展示、ライティング（照明）等の空間デザインと装飾性だけでなく機能性やエコ、経済との関わりまで含めたファッションデザイン、そして金属やゴム、ワックスなどの多彩な素材を駆使するジュエリー・アクセサリを学びの柱としています。

空間デザインコース / ファッションデザインコース



環境デザイン学科

エネルギーや生物多様性、水資源、低炭素社会など、地球規模の大きな視点を持ちながら、衣服、空間、建物、街、地球という連続性のある「環境」を考え、持続可能な建築／街作りについて、建築・インテリアデザイン・ランドスケープデザインを中心に幅広く学びます。

建築・インテリア・環境デザインコース



映画学科

映画製作・俳優の2コースで構成され、担当教員は第一線の映画人ばかりです。拠点である高原校舎にはスタジオが併設され、プロの現場を経験できるプロジェクトも多数実施されています。「映画は万能」の考えの下、技術のみならず想像力ある人材を育てます。

映画製作コース / 俳優コース



舞台芸術学科

演技・ダンス・演出・振付・劇作・舞台美術・照明・音響など舞台に関わることをトータルに学びます。学内の劇場施設も活用しながら、欧米の一流養成所が採用しているスタニスラフスキーシステムやメソッドを用いた指導で世界の舞台に通用する俳優を養成します。

演技・演出コース / 舞台デザインコース



文芸表現学科

文学の研究だけではなく日本語を使った創作活動を学ぶ学科です。また、文芸メソッドの具体的なスキルを獲得することで得られる文章表現力はもちろんのこと、デザインの知識や編集技能についても修得することで、広く出版メディアで活躍できる人材の育成を目指しています。

クリエイティブ・ライティングコース



芸術表現・アートプロデュース学科

コミュニケーションを大切にし、アートを媒介として人々が集うコミュニティを創造できる人材の育成をめざしています。美術史や芸術理論はもちろん作品を最高のかたちで世に送り出し、作品と人をつなぐ喜びを実感できる実験的・実践的なカリキュラムを盛り込んでいます。

アートプロデュースコース



こども芸術学科

こどもの発達心理だけでなく、絵本や玩具等のデザインも学習し、成長に保育と芸術の両面から関わる人材を育成します。カリキュラムは、「保育原理」等の授業はもちろん、こどもや障害のある方とのワークショップを行うなど、座学と実習のベストミックスで展開しています。

こども芸術コース



歴史遺産学科

歴史的な位置づけをもとに劣化損傷を修復する文化財の保存修復者と、歴史遺産を後世に伝える手助けをする人材の育成が目標です。歴史資料の調査方法や、絵画・工芸、建築・庭園など文化財に関する専門的知識、歴史遺産に関する保存と活用について、幅広く学びます。

文化財保存修復・歴史遺産コース

大学コンソーシアム京都で提供する単位互換科目

歴史文化論Ⅰ[前期2] / 歴史文化論Ⅱ[後期2] / 文化遺産特講Ⅲ[後期2] / 日本史特講Ⅱ[通年4] / 日本芸能史Ⅰ[前期2] / 日本芸能史Ⅱ[後期Ⅱ] / 芸術表現特講Ⅱ[通年Ⅱ] / 舞台芸術概論[通年4] / 舞台芸術論Ⅴ[集中2] / アニメーション概論Ⅰ[前期4] / アニメーション概論Ⅱ[後期4] / 情報デザイン論Ⅱ[集中2] / 情報デザイン論Ⅴ[集中2] / ランドスケープデザイン論[前期2] / 環境デザイン概論[前期2] / アーキテクトスクール[集中2]

瀬戸内国際芸術祭 2013 に たけし × ヤノベケンジの作品を出展

京都造形芸術大学が誇る立体工房「ULTRA FACTORY」で制作された、ビートたけしとヤノベケンジのコラボ作品「ANGER from the Bottom (地底からの怒り)」。1/15の初お目見え以降、2/3まで東京都現代美術館で展示されていたこの作品が、3/20からの瀬戸内国際芸術祭 2013 で屋外展示されることになりました。ビートたけしをして「この凄さは実際に見てみないとわからない!」と言わしめた大迫力の彫刻作品を、ぜひその目で確かめてみてください。



京都造形芸術大学のロゴマークが、 新しく生まれ変わります。



学校法人 瓜生山学園 京都造形芸術大学

1977年に開学した京都芸術短期大学に端を発する京都造形芸術大学は、2012年に35周年を迎えました。そして2013年、新たな歴史を刻むにあたって、京都芸術デザイン専門学校、京都文化日本語学校と法人を統合するとともに、大学の「顔」とも言えるロゴマークを一新することが決定しました。ロゴの制作にあたったのは、金沢21世紀美術館や国立科学博物館のシンボルマーク開発等で世界的にも有名な佐藤卓デザイン事務所。一滴の墨汁を紙に落とした偶然の形を模したこのロゴは、自然に委ねる芸術やデザインのあり方を表しています。新しいロゴと、新しい歴史を歩む京都造形芸術大学にこれからもご期待ください。



2013年4月、「手のひら芸大」を開設!

スクーリング(対面授業)の時間が取れない、学費の捻出が難しい。そんな方の為に生まれた新しい形の通信教育が、通信教育部芸術教養学科、通称「手のひら芸大」です。その名の通り、インターネットが繋がる環境さえあれば、自宅はもちろんスマホやタブレットを使って電車やカフェといった屋外でも学べるシステムで、学費は年間なんと17万円。しかも教材はテキスト形式はもちろん、視覚的にもよりわかりやすいNHKエデュケーショナルが提供する豊富な本格的な動画コンテンツがもりだくさんです。ネットだけで学べて四年制大学の資格が得られる手のひら芸大は、今なら無料メンバー登録を受付中。この機会にぜひ「新しい学び」の形を体験してください。

手のひら芸大についての詳しい情報はこちら→ <http://www.kyoto-art.ac.jp/t-tenohira/>



課外活動での理論の実践 学生間で進める国際交流

大学コンソーシアム京都が事務局を担っている京都学生祭典と京都国際学生映画祭。共に昨年、節目となる開催を終え、また今年新たな一步を踏み出します。今回は各委員会の実行委員長・副実行委員長を招き、語っていただきました。

それぞれの魅力

司会 みなさんが活動に参加した動機についてお聞かせください。

三浦 私は京都学生祭典(以下、学生祭典)の規模が自大学のサークルや学園祭以上に大きいことに魅かれましたね。

堤 僕は高校時に生徒会で学園祭や体育祭を運営していたこともあり、継続していきたいという気持ちがありました。当初は自大学の学園祭実行委員で活動しようとしたのですが、より社会と接触のある学生祭典を選びました。特に数多くの企業と折衝できることに魅力を感じましたね。

中川 私も生徒会に参加していましたが、それ以上に北海道出身ということもあり、せっかくだから京都でしかできないことをしてみたいという気持ちから参加しました。



佐野 生徒会の経験者が多いですね。実は僕も生徒会の経験がありまして、中学1年生から高校3年生までの学生や教員まで多くの人と意見交換する過程で多くの学びを得ました。京都国際学生映画祭(以下、映画祭)もインカレであるからこそ、多種多様な学生の価値観に触れることができ、学ぶことも多いと感じました。あと英会話部に属していたこともあり、海外の方とも交流できることに魅力を感じました。

橋本 僕は番組や映像制作に興味・関心があり、映画祭に入って企業と接触する中で知識を得たいと考えました。

福本 私は地方出身なのですが、京都は「学生のまち」の印象がありました。だからこそ、京都には多くの大学と交流できる印象をもって、それを体感したかったですし、CMIにも興味があったので映画祭を選びました。

チームで取り組むことの意義

司会 活動をしてみて苦労したこと、そこからの学びはどういったものがありましたか。

佐野 昨年は作品を審査する部門に属していて、22カ国362作品が集まったのですが、多くの海外学生監督とメールや電話などのやり取りをするのが非常に難しく、苦労する一方でなんとか自力でやり遂げようと思いました。しかしながら、結果を出すためにはそれは適切ではなく、いかにチームで取り組んでいるかを意識し、頼り(助け)合うことが必要かを学びました。

橋本 それは僕も実感しましたね。映画祭は20人程度の団体ですので、1人欠けてしまうと他のメンバーに与える負担が大きく、チーム一人一人の存在価値とチームで取り組む意義を感じました。

福本 それもあってか、自分は最後までやり抜くという責任感もおのずと得ることが出来ました。また、目の前のタスクを処理することに必死になっていると、本来の映画祭の目的を見失うこともあり、これを回避しないと成果物も中途半端なものになってしまうという気づきもありました。学生祭典ではどうですか。



堤 自分たちの場合も実行委員に活動してもらいたいと思いますが、組織が200人規模で大きいのでスピードを求めると頼ることができないでいますね。

中川 一人一人が必要とされることって活動する上では大事だと思いますね。

実践の場での理論の活用

司会 活動での学びが学校生活に生きていること、また学校で学んだことが活動に活用できている事例はありますか。

三浦 学生祭典でうまくできた会議運営方法をゼミのグループワークで活用することで意見がまとまったことはありますね。

中川 私はメディア学科なのですが、例えば広告論を学んだ理論を、学生祭典でプレスリリースの作成時に用いたりします。アウトプットする場があるので、学ぶことの意味を見いだせています。メディアリテラシーについても学んでいるので、学生祭典にも活用していきたいですね。

佐野 実践を意識しながら講義に参加できるのは凄く良いことですよね。僕なんて…(苦笑)

堤 僕も組織論やリーダーシップ論などの経営理論を学んでいて、個人や学生祭典の組織に反映させています。

三浦 私は学生祭典で予算業務を担当していますが、行政学で予算について学ぶことがあり、学生祭典をどうしても意識していますね。

中川 私も学生祭典で予算書を読み解くために簿記を勉強し始めました。

一同 (!)

第11回京都学生祭典

京都女子大学3回生
副実行委員長
三浦 直子

立命館大学3回生
実行委員長
堤 大地

同志社大学3回生
副実行委員長
中川 真利奈



京都学生祭典とは・・・

「大学のまち・学生のまち」京都だからできる、学生プロデュースの祭。大学生と経済界・行政・地域・大学が互いに連携して京都の魅力・学生の魅力を発信し、京都をさらに盛り上げている。例年、10月に平安神宮・岡崎公園一帯で開催される本祭には10万人以上の老若男女が集まり、活気に包まれている。

URL <http://www.kyoto-gakuseisaiten.com/>

第16回京都国際学生映画祭

龍谷大学短期大学部2回生
副実行委員長
福本 みなみ

同志社大学3回生
実行委員長
佐野 力

立命館大学2回生
副実行委員長
橋本 尚和



京都国際学生映画祭とは・・・

学生が主体となり運営を行なっている日本最大規模の国際学生映画祭。日本国内はもちろん世界中の学生から映画を募集・審査し、入選作品を上映するコンペティションプログラムを中心としており、その他にもさまざまな特別企画や連携企画を開催している。例年、映画のジャンルや国籍、年齢を超えた交流の場が生まれている。

URL <http://kisfvf.com/>

福本 私は大学で専門的なことを学んでいるので、大学では学べないことを、活動を通して学ぶことができるので意義を感じています。

佐野 講義や活動の新たな参加の仕方を発見できた気がしますね。

グローバル化に対して

司会 昨今グローバル化がキーワードになっていますが、それに対しての実行委員会の考えや今後の展開をお聞かせください。

中川 私はインターンシップで留学生の就職説明会の運営をしたことがあり、国や地域の違いによる互いの価値観を押し付けるのではなく、相互理解をした上で何かを成し遂げないといけないと学びました。それと同時にただ単に留学生がその場にいることがグローバル化ではないことも感じました。京都の留学生は日本が好きで、「何か貢献したい」「日本で得たものを母国に持って帰りたい」という意識が強いと私は実感していて、それを汲みとって学生祭典で共に何かを生み出したいと考えています。その過程で相互理解を促進し、本当の意味でのグローバル化を図りたいです。



堤 私は海外旅行によく行くのですが、異文化に触れることは重要だと思っています。是非、大学生のうちに国内でも構わないのでその違いを目の当たりにできる機会を創出したいですね。

中川 映画祭には実際に海外学生監督はお越しになるのですか。

福本 はい。お越しいただいた際のアテンドや来場者へ向けての翻訳など映画祭を運営するにあたっては必然的に交流が生まれています。会場外でも一部の監督は実行委員のお家に泊ってもらい、交流も図っています。お声掛けすると、京都なら喜んでお越しいただけます。ただ、開催期間中は映画祭の運営にかかりっきりで観光などを通して交流できないのがもったいないですね。

一同 それ学生祭典も協力しますよ!

一同 是非お願いします!(笑)

福本 海外学生監督に聞いてみると日本人ともしっかり話す機会が欲しいらしく、映画制作の取り組み方も違うのでそういった意見交換を含めた交流をすることは互いに必要ですね。

佐野 会って即座に話しかけるのはお互いに難しいですね。ただ、その見えない壁を取り除く仕掛けをつくるのが大事ですね。

橋本 京都をもっと好きになってもらって帰ってもらいたいですよね。



意気込み

司会 最後に実行委員長から意気込みを一言お願いします。

堤 共通の理念・目標を持ちながら、映画祭を含めた様々な関係団体・機関と一緒に本祭を迎えていきたいです。

佐野 本祭までに各関係団体と互いに交流することで、次の代につながる展開をしていきたいです。お互い京都の学生のパワーを発揮して、この京都に活力を与えていきましょう。

取材日:2013年1月31日(木)

.....

学生がプロジェクト活動をととして、多種多様な社会人や地域の人々との交流や、それを通じた様々な気付きや学びを得ることが重要視されるようになっていきます。大学コンソーシアム京都では行政、経済界、大学界や地域と協働で京都学生祭典や京都国際学生映画祭という学生交流事業を展開し、「大学のまち京都」をリードする学生の育成に取り組んでいきます。

.....

単位互換制度

京都は “ひとつのキャンパス”

単位互換制度とは、他大学が開講する科目を履修し、修得した単位が所属大学の単位として認定される制度です。大学コンソーシアム京都では、50の大学・短期大学部が一同に協定を締結し、制度を運営しており、日本で最大の規模です。

所属大学にはない分野を学びたい、他の大学で授業を受けたいなど様々な動機で多くの学生が履修しています。新しい発見や出会いがある単位互換制度を利用してみてください。



■一部科目紹介

【科目名】 坐禅入門

【提供大学】 花園大学

現代人は何もかも知っている。でも知らないものが一つある。それは自分自身の事である。その自分を究明していくことが禅である。キャンパスプラザの静かな教室で椅子による座禅は、この授業を受ける学生にしか味わうことができない。ここでは人間とは何かを問い、自分を見つめ、自己点検から、更にいのちの充電に発展していけばと願い、そんな授業を試みている。



科目について

単位互換の科目は、各大学で行われる科目(オンキャンパス科目)はもちろん、京都駅前のキャンパスプラザ京都で開講される科目(プラザ科目)、学ぶ時間・場所を問わないeラーニング科目があります。京都のあちこちで講義は受けられますから、自分の履修計画から科目選択を行うことも可能です。

受講方法について

『単位互換履修生募集ガイド』を所属大学で入手、もしくは大学コンソーシアム京都のHPよりデジタルブックにて確認してください。

利用条件

「単位互換包括協定」を締結している大学に在籍する学生(大学院生を除く)なら所属大学の定める範囲において、誰でも単位互換科目を受講することができます。

受講料

無料です。ただし、科目によっては、実習費や教材費が必要な場合もあります。

出願登録の時期、単位認定が可能な科目の種類、単位数(登録・認定)の上限について

所属大学によって異なりますので、所属大学の単位互換制度担当窓口(教務課や学部事務室)にお尋ねください。

こと e京都ラーニングの利用について

開講科目や授業などのお知らせ情報(休講・補講・試験等)については、e京都ラーニングのホームページ上から確認することが出来ます。

◆P C <https://el.consortium.or.jp/>

◆携帯 <https://el.consortium.or.jp/cns510.php>

単位互換包括協定大学(2013年度)計50大学

【国立大学】 京都大学／京都教育大学／京都工芸繊維大学

【公立大学】 京都府立大学／京都府立医科大学／京都市立芸術大学

【私立大学】 池坊短期大学／大谷大学／大谷大学短期大学部／京都華頂大学／華頂短期大学／京都外国語大学／京都外国語短期大学／京都学園大学／京都経済短期大学／京都光華女子大学／京都光華女子大学短期大学部／京都嵯峨芸術大学／京都嵯峨芸術大学短期大学部／京都産業大学／京都女子大学／京都精華大学／京都西山短期大学／京都聖母女子学院短期大学／京都造形芸術大学／京都橘大学／京都ノートルダム女子大学／京都美術工芸大学／京都文教大学／京都文教短期大学／京都薬科大学／種智院大学／成安造形大学／成美大学／成美大学短期大学部／同志社大学／同志社女子大学／花園大学／佛教大学／平安女学院大学／平安女学院大学短期大学部／明治国際医療大学／立命館大学／龍谷大学／龍谷大学短期大学部／大阪成蹊大学芸術学部／大阪医科大学／昭和女子大学／昭和女子大学短期大学部／早稲田大学

つながる。変わる。
 働く。

INTERNSHIP PROGRAMS2013

インターンシッププログラム

きっかけはインターン、いつかそう思う時が来る。

当財団が窓口となって実施するインターンシップ・プログラムは、全国に先駆けて1998年度から本格的に導入され、16年目を迎えます。一般的にインターンシップとは、「学生が在学中に企業や行政機関等において、正社員・正職員に準じる立場で就業体験を行う」ものです。その中でも、当財団プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム(コーオペ教育)です。

インターンシップに参加し実社会を体験することで、「働く」ということ、「仕事」というものを理解することができ、大学での学習内容や自らの専門分野が実社会でどのような意味を持つのかを確認し、その後の大学での学びや、学生生活の充実に関わりつけることができます。



特徴1 京都地域の大学・短期大学から学生が集まります

京都地域にある大学・短期大学を中心に、学部や学年を越えて多くの学生が参加します。多様な価値観に触れ、同じ目的をもつ多くの仲間と出会うことができます。

特徴2 充実した事前・事後学習

少人数でのゼミ形式による学習を行っており、ディスカッション等を通して自身の考えや実習の目的意識をより深めることができます。また、社会人として必要なビジネスマナーについても学びます。

特徴3 豊富な実績でサポート

本プログラムではこれまでに約7,200名の修了生を送り出してきました。この実績は、現在のインターンシップ・プログラムに大きく活かされています。

プログレスコース
 (長期プロジェクト型)

6月～11月の約6ヶ月間

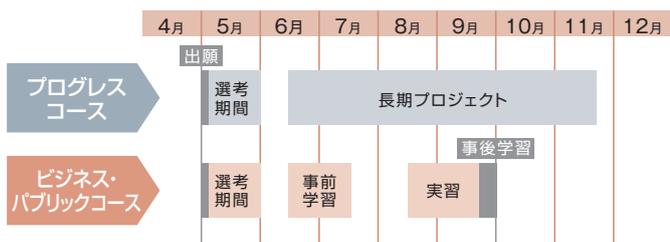
受入れ先が提示したテーマに沿って、プロジェクト型のインターンシップを行う。

ビジネス・パブリックコース
 (短期実践型(夏期))

8月中旬～9月中旬の
 2週間～1ヶ月程度

企業、行政機関・非営利組織(NPO・NGO等)等において、実習を行う。

◆ インターンシップ・プログラム実施スケジュール ◆



◆ 今後のスケジュール ◆

プログラム事前説明会

日時: 2013年4月13日(土)
 18:00~19:30

会場: キャンパスプラザ京都

※事前予約は不要です。(任意参加)

※所属大学にて「大学コンソーシアム京都:インターンシップ・プログラム説明会」が実施される場合には、同内容です。大学における実施日は、所属大学にてご確認ください。

プログレスコース説明会

日時: 2013年4月18日(木)
 全体説明会 18:15~20:15
 個別相談会 20:15~21:00

会場: キャンパスプラザ京都

※事前予約は不要です。(任意参加)

出願・面接

日時: 2013年5月10日(金)
 16:30~19:00
 5月11日(土)
 14:00~19:00

会場: キャンパスプラザ京都

持参物: 出願票(写真貼付)、筆記用具、
 印鑑(シャチハタ可)

※出願・受講にかかる留意点・注意事項、プログラムのスケジュール等の詳細については、各大学にて配布されている「インターンシップ・プログラム募集ガイド」をご覧ください。

大学職員共同研修プログラム

多くの大学に
ご利用いただいています!

大学を取り巻く環境が急激に変化している状況において、大学の管理運営のあり方が重要な位置を占めるようになり、大学職員の担う役割は非常に大きなものとなってきています。そのような環境に適応するためにも、職員の能力向上は大学にとって必要不可欠なものとなっています。

そこで、当財団では、職員の能力向上や大学業務の効率化・高度化を目的とすると同時に、スケールメリットを活かした各加盟大学等の経費削減を目指した共同事業として、本プログラムを実施しています。



ホームページにて
随時受付中!

詳細は
ホームページにて
ご確認ください。

プログラム名	開講予定日	時間	主な対象
ビジネスマナー研修(基礎編)	3月21日(木)、22日(金)、27日(水)、6月7日(金)	9:45 ~ 17:15	新任者
職場活性化コミュニケーション術	8月7日(水)		全職員
問題解決力向上	8月9日(金)		中堅職員以上
カウンセリングマインド	9月4日(水)		勤続3年以上
企画力向上	9月6日(金)		中堅職員以上

総務・広報部

第10回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム

メイン
テーマ

－大学に求められる役割と
大学間連携における未来－

基調講演

日本学術振興会 理事長 安西 祐一郎氏

今年で
第10回目を
迎えます

会場 同志社大学 今出川キャンパス寒梅館他(予定)

申込み 2013年6月(予定)

全国大学コンソーシアム協議会は当財団が事務局を担っている国内各地域の大学コンソーシアム(大学連合体・大学連携組織)からなる組織であり、高等教育の発展に資するべく、各大学コンソーシアムの取り組みや研究成果等の情報交換を実施しています。記念すべき第10回を迎える2013年度は9月14日(土)13:00~20:00にて基調講演・シンポジウム・ポスターセッション・情報交換会を開催し、15日(日)10:00~15:00にて分科会を開催します。



1日目

9/14
(土)

13:00~20:00

基調講演・シンポジウム
ポスターセッション
情報交換会(ホテルオークラ)

2日目

9/15
(日)

10:00~15:00

分科会

主催・お問い合わせ

全国大学コンソーシアム協議会
Tel: 075-353-9100
e-mail: alljapan-consortium@consortium.or.jp

詳細は /

全国コンソ

検索

高大連携プログラム「成果報告会」

学生にとっても、
良い機会となりました。

2013年2月16日(土)、京都高大連携研究協議会事業である「実践研究共同教育プログラム」をはじめ、各高等学校における高大連携プログラムについての「成果報告会」を龍谷大学・大宮キャンパスにて開催しました。各高校で1年間取り組んだ高大連携プログラムの内容と成果を生徒から発表し、質問票を用いた質疑も活発に行われました。



「成果報告会」参加高校テーマ一覧

京都府立園部高等学校	今日の世界を知る ～明日の世界を考える～
京都市立洛陽工業高等学校	電池による電気エネルギーの有効活用
京都府立東稜高等学校	文明と環境
京都府立洛東高等学校	珪藻化石が語る80万年前の伏見・深草
	Mクラスリムフレアの分光観測
	アウトバーストを起こしたHT Cas
京都府立南丹高等学校	小・高・大連携(SPP授業)を通じたエネルギー環境教育 ～高校生による小学生への実験を行って～

参加者の声

高校生

- ・自分たちの改善すべき点が認識できたり、様々な学校と関わることができて勉強になりました。また多くの大学の先生からのコメントを参考にしこれからの学習に取り組もうと思いました。
- ・自分達と同じ高校生がしているプレゼンテーションを見てすごく刺激を受けたいし、興味を持つことができました。色々な高校が高大連携をしているのを見て「自分たちもこんなことがしたい」と思えるものもあり大変よかったです。
- ・連携授業の重要性をもっと広げていく必要がある。今後もぜひ続けてもらいたい。
- ・大学教員のコメント・担当教員コメント等が得られ、各校の内容をより深く理解するのに役立った。

高校教員

TOPICS

PROJECT REPORT 事業報告

教育事業部

単位互換事業

単位互換制度では、2012年度から後期(9月)追加登録を新たに新設、年3回の登録機会を設けました。新設の登録機会に伴い、出願者は239名と6月の追加登録の324名より若干少数となりましたが、最終的な結果としては出願者数6,055名、受講許可者数5,601名となり、昨年度とほぼ同数となりました。登録機会としては、数年間は3回の機会を維持し、動向により各加盟大学・短期大学部の登録機会を合わせたいと考えています。



包括協定大学・短期大学部数	提供科目数	出願者数	履修許可者数
51校	551科目	6,055名	5,601名

2012年度提供科目分類内訳

単位互換科目はA～Jの10分類にテーマ分けして、科目を提供しています。

	テーマ	提供科目数	ブラザ科目	オンキャンパス科目	eラーニング科目
A	京都を探る	20	9	11	0
B	歴史と文化に触れる	89	14	73	2
C	美の世界に触れる	52	5	47	0
D	文学の世界に触れる	20	1	18	1
E	ことばの魅力を知る	52	13	38	1
F	いのちと人間を考える	69	11	57	1
G	教育とは…何だろう	31	5	26	0
H	自然に学ぶ	46	5	40	1
I	環境と暮らしを考える	48	4	44	0
J	現代社会を知る・考える	124	15	101	8
	合計	551	82	455	14

みやこ

京カレッジ(生涯学習)事業

2012年度京カレッジは、延べ1,327名(大学講義科目に441名、市民教養講座314名、キャリアアップ講座85名、京都力養成コース487名)の皆さまに出席いただきました。出願方法について、2012年度より従来の郵送と持参での出願に加えて、新たに財団ホームページから出願登録ができるシステムを導入しました。

【提供科目団体数】 36大学、1機関
【提供科目数】 469科目
【受講科目数】 228科目
【履修者数】 実数618名 延べ数1,327名



インターンシップ事業

2012年度は昨年度に引き続き、短期実践型として「ビジネスコース」および「パブリックコース」、長期プロジェクト型として「プログレスコース」を実施しました。受入れ先として265団体に登録いただき、また、出願学生676名のうち、422名が各コースを受講しました。例年、アンケート結果において、受講生で約9割、受入れ先で約8割が「満足」と回答しており、双方にとって非常に満足度の高いプログラムとなっています。



コース	学生			企業・団体		
	出願者数	受講者数	受講率	登録団体数	受入団体数	受入れ率
ビジネスコース	621	304	59.7%	191	149	78.0%
パブリックコース		67		61	33	54.1%
プログレスコース	55	51	92.7%	13	6	46.2%
合計	676	422	62.4%	265	188	70.9%

高大連携事業部

第10回高大連携教育フォーラム

2012年度は参加者同士の意見交換の機会を設けるために従来の三部構成から二部構成に変更すると共に、学生スタッフがディスカッション運営に携わることで好評を得ることができました。また、第10回高大連携教育フォーラム開催、京都高大連携研究協議会発足10周年を記念し、関係者・参加者等、約100名の出席のもと、情報交換会兼記念レセプションを開催しました。



【開催日程】 2012年12月7日(金)9:30~17:00
 【開催会場】 キャンパスプラザ京都
 【来場者数】 244名
 【開催テーマ】 「これからの時代に求められる学力・能力とは?」
 -教育の目標を明確化するために-

第1部 講演・シンポジウム(定員:200名)

講演	テ - マ	中教審答申の理念と新学習指導要領
	報告者	安彦 忠彦(神奈川大学 特別招聘教授/名古屋大学 名誉教授)
シンポジウム	概要	平成20年の中教審答申の理念ない趣旨と、それによる小・中・高校の学習指導要領の改訂とを対比しながら、全学校段階でめざされた理念を核にして、主に高校段階の改訂学習指導要領の基本的特徴を明示し、合わせて大学との接続・連携に関連する問題について、現時点における国の今後の施策の方向を概略して述べ、シンポジウムのための情報提供とする。
	パネリスト	笠谷 卓生(近畿高等学校 進路指導連絡協議会 事務局長/京都府立鴨沂高等学校 進路指導部長) 椋本 洋(大学コンソーシアム京都 高大連携推進室/立命館大学 理工学部 講師) 今村 亮(特定非営利活動法人NPOカタリバ カタリ場事業部 事業部長)
	コーディネーター	内村 浩(大学コンソーシアム京都 高大連携推進室長/京都工芸繊維大学 アドミッションセンター 教授)

第1部 ディスカッション(定員:キャリア形成100名、高大接続120名)

キャリア形成	テ - マ	高大連携をふまえたキャリア形成教育
	報告者	遠山 秀史(京都府教育委員会 高校教育課 指導主事)
高大接続	コーディネーター	中村 博幸(大学コンソーシアム京都 高大連携推進室/京都文教大学 臨床心理学部 教授) 浜畑 芳紀(大学コンソーシアム京都 高大連携推進室/立命館大学 教育開発推進機構 教授)
	概要	教育の場における「キャリア」ということばの使われ方は、キャリア指導、キャリア教育、キャリア形成の様に変化している。キャリア指導は、就職の為の資格取得やマナー・ルール等のスキル育成が中心であった。キャリア教育は、適性テストや自己分析をふまえて将来の進路について考える教育であった。そしてキャリア形成は、リテラシー(PISA)やキー・コンピテンシー(OECD)を意識して、ジェネリック・スキルの育成に焦点があてられている。しかし、これらの用語の意味は、個々の教員や高校・大学、各々でも認識が異なるといえる。そこで本分科会では、論点を整理した上で、参加者が小グループに分かれて議論を行う形の展開をはかりたい。
高大接続	テ - マ	高大接続の新展開
	報告者	鈴木 誠(北海道大学 高等教育推進機構/高等教育研究部/大学院 理学院 教授)
高大接続	コーディネーター	山本以和子(大学コンソーシアム京都 高大連携推進室/京都工芸繊維大学 アドミッションセンター 准教授)
	ファシリテーター	筒井 洋一(大学コンソーシアム京都 高大連携推進室/京都精華大学 人文学部 教授)
	概要	激しく変化し、予測不可能な社会における大学機能の再構築が求められている。6月の文部科学省「大学改革実行プラン」では、グローバル化対応、主体的に行動できる人材育成を目指した大学教育への質的転換のために、大学入試についても学ぶ意欲や力を測るような現在の機能からの転換を掲げている。そのために高校教育と入試して大学教育をどのようにつなげ、しゅみを構築すればいいのか。まずは、このテーマについて北海道大学の鈴木先生からフィンランドの大学入学資格試験事例についてご発表いただく。本ディスカッションでは、既存システムに囚われずに日本以外の事例も視野に入れた発表者の問題提起を受けて、参加者同志の話し合いを行い、問題提起を聞くだけでなく、参加者自らがより身近な解決策を模索することを目的にしている。

第2部 分科会(定員:表現技法60名、数学30名、英語30名、理科40名)

表現技法	テ - マ	高大連携授業「自己を表現することで強みを伸ばす」
	報告者	筒井 洋一(大学コンソーシアム京都 高大連携推進室/京都精華大学 人文学部 教授)
表現技法	報告者	大木 誠一(神戸国際大学附属高等学校 教諭)
	概要	これまで本分科会では、広い意味での表現力の育成について、教科・専門にとらわれない高校・大学教員の報告を中心に展開してきた。本年は、それをさらに前進させるために、発表者である高校教員と大学教員が共同で高校の授業を企画し、それを素材にして、参加者同士でよりよい問題解決を図る。事例としては、神戸国際大学附属高校2年生(アスリート中心)のホームルームを取り上げる。生徒は、四コママンガで活動歴をビジュアル化し、それを第三者にプレゼンテーションするものである。分科会参加者には、アスリートにとらわれるのではなく、むしろ生徒一般が自身の強みをどのように表現すればいいのかについて考えてもらう機会となる予定である。
数学	テ - マ	数学を活用して思考・判断・表現する力をつける
	報告者	松浦 清恵(京都市立堀川高等学校 教諭) 川添 充(大阪府立大学 高等教育推進機構 教授)
数学	コーディネーター	古池 強志(京都市教育委員会 指導主事)
	概要	さまざまな課題の解決にむけて、数学を積極的に活用して思考・判断・表現する力を身につけることは、現代社会を生き抜いて行く上でも重要なこととされている。そのような能力や態度を養うことを目標の一つに掲げている高等学校新学習指導要領のもとでの高等学校現場の取組や課題、また、数学を思考ツールとして用いる力を身につけるための大学での授業実践などを報告し、発達段階を考慮した数学での言語活動の充実、数学を積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度の育成、そしてその視点から高大連携の可能性などについて考える。
英語	テ - マ	英語教育における効果的な高大連携を考える
	報告者	東谷 保裕(立命館宇治中学校・高等学校 教頭(国際教育担当)) 山岡 憲史(立命館大学 教育開発推進機構 教授)
英語	コーディネーター	今川 佳紀(立命館宇治中学校・高等学校 外国語科 主任)
	概要	立命館宇治中学校・高等学校では、生徒の英語力や教員の指導力の伸長を目的として立命館大学の様々な学部と連携している。例えば、教育開発推進機構と協同して、よりコミュニケーション文法指導を目的とした教材(問題集)の開発や、英語教育をより効果的に行うために不可欠であるCan do listの作成を行った。また、文学部と連携して、本校英語教員の指導技術の向上を目的とした研究授業を実施したり、英語教員志望の大学生をインターンシップ生として本校で受け入れ、学生の英語指導技術向上につながるよう指導を行ったりした。分科会ではこのような高大連携の具体例を紹介させていただき、より効果的で実りある高大連携の在り方について議論を深めたい。
理科	テ - マ	SPPによる高大連携講座の実践 ~高校生や大学生TAが体験し考えたこと~
	報告者	谷口 謙作(京都府立菟道高等学校 教諭) 京都工芸繊維大学 大学院 工芸科学研究科生2名
理科	コーディネーター	遠山 秀史(京都府教育委員会 高校教育課 指導主事)
	概要	京都府立菟道高等学校は、平成19年度(2007年度)から文部科学省のSPP(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト)を活用して、京都工芸繊維大学の老田准教授との高大連携講座を実施している。テーマは「水表面の不思議(表面張力のしくみや界面活性剤の働き)」で、普通科理系2年生対象の3回連続講座。1回目は大学研究室での実験、2回目は高校実験室での実験、3回目はその実験内容と結果と考察を班ごとにまとめて発表・質疑応答を行う。3回の講座の中で高校生が体験したこと、大学生が体験したこと、その体験を通して高校生や大学生や教員が何に気付いてどのような成長があったかについても報告を行う。



京都の大学「学び」フォーラム2012

各大学から提供された模擬講義や体験型講座などを受講することにより、京都府内を中心とする高校生が、自らの進路を考える機会になることを目的としています。今年度は京都会場において過去の「京都の大学「学び」フォーラム」においても最多の2,722名の参加者を得ることができました。



開催日程	開催会場	来場者数	提供科目数
2012年6月10日(日) 10:00～13:45	龍谷大学 瀬田キャンパス	679名	32科目 (模擬講義・体験型講座)
2012年10月27日(土) 9:00～15:00	大谷大学	2,722名	37科目 (模擬講義・体験型講座)

京都ワンキャンパス

3会場においてのべ約50大学に大学相談ブースの設置にご協力いただきました。京都の学びの魅力を掲載した「学びスタイル」を全参加者(11,070名)に配布するとともに京都の大学情報コーナーにおいては200名を超える参加者と面談し、京都の大学への進学意欲の喚起に努めました。



日程	都市	会場
2012年7月7日(土)	東京	東京国際フォーラム
2012年7月22日(日)	名古屋	吹上ホール
2012年8月26日(日)	大阪	グランキューブ大阪

実践研究共同教育プログラム

高校教員と大学教員が共同で授業プログラムを開発し、高校の正課授業の中で継続して実践する取り組みです。2012年度は前年度からの継続の3プログラムに加え、新規実践校2校を採択して実施しました。また、2012年度の新たな取り組みとして、プログラム実践校を中心に高大連携において先進的な取り組みをしている高校による合同成果報告会を実施しました。

※詳細はP8参照

テーマ	連携高校	連携大学
ものづくりと心・人と人をつなぐ「もの」(3年目)	府立京都八幡高等学校	大阪成蹊大学芸術学部 京都橘大学
競技力向上に関する研究、健康教育に関する研究(3年目)	府立乙訓高等学校	京都文教短期大学 立命館大学
文明と環境(2年目)	府立東稜高等学校	大谷大学 京都光華女子大学 佛教大学、立命館大学
今日の世界を知る～明日の世界を考える(1年目)	府立園部高等学校	京都学園大学 京都光華女子大学 京都工芸繊維大学
電池による電気エネルギーの有効活用(1年目)	市立洛陽工業高等学校	同志社大学 立命館大学

キャリア教育プログラム「Kyotoカタリ場」

初等中等教育から高等教育までを通じた社会的・職業的自立をめざすキャリア教育・職業教育の展開が求められている中、京都高大連携研究協議会では、高校生が将来に向かうための学習意欲を喚起することを目的として2012年度より「Kyotoカタリ場企画～高大連携によるキャリア教育プログラム～」を開始しました。



日程	会場	参加高校生数
2012年4月20日(金)	京都府立東宇治高等学校	271名(2年生)
2012年6月10日(日)	京都の大学「学び」フォーラム滋賀会場	自由参加
2012年9月20日(日)	京都府立洛水高等学校	239名(2年生)
2012年10月27日(日)	京都の大学「学び」フォーラム京都会場	自由参加
2012年11月7日(水)	京都市立日吉ヶ丘高等学校	268名(2年生)
2012年11月29日(木)	京都府立洛西高等学校	400名(1年生)
2013年2月13日(水)	京都府立乙訓高等学校	242名(1年生)

高等教育研究推進事業部

第10回SDフォーラム

「若手職員の成長・育成」をテーマに第10回SDフォーラムを開催し、全国より161名の参加を得ました。当日は、基調講演にひきつづき、話題提供と質疑、グループワークなど様々な手法による分科会を行いました。また初めての試みとして、若手中心の分科会や若手と中堅・ベテラン層の対話を中心に据えた分科会など、経験年数等を勘案した企画も組み込みました。参加者から質疑やグループワークでの情報交換等において積極的な発言が多数寄せられ、充実した企画となりました。

【開催日程】2012年10月21日(日)10:00～17:30

【開催会場】キャンパスプラザ京都

【来場者数】161人

【開催テーマ】若手職員の成長・育成

講演会

テーマ 若手職員の成長につながる学びとは

講師 夏目 達也(名古屋大学 高等教育研究センター 教授)

分科会

A	テーマ	主体的なキャリア形成を通じた大学改革へのアプローチ
	報告者	山内 尚子(京都産業大学 学長室)
B	テーマ	自主勉強会による大学職員の自律的キャリアデザイン
	報告者	横内 雄介(明治大学 就職キャリア支援部)
C	テーマ	経験学習の促進による育成の取り組み～立命館大学での取り組み～
	報告者	大島 英穂(立命館大学 教育学部事務部長)
D	テーマ	大規模大学の職員研修制度の現状と今後～龍谷大学での取り組み～
	報告者	屋山 新(龍谷大学 総務部長)
E	テーマ	人と組織の成長をめざして～堀場製作所での取り組み～
	報告者	野崎 治子(株式会社堀場製作所 管理本部 人事担当副部長)
F	テーマ	若手・中堅職員と管理職がともに育つ組織をめざして
	報告者	重光 直之(株式会社ジェイフィール 取締役 コンサルタント)



SDワークショップ2012

テーマ別の話題提供をベースに、参加者が様々な課題・事例を持ち寄ってグループワークで検討を深める「SDワークショップ」を開催しました。参加者から、「日常業務を少し離れて高等教育について考えるきっかけになった。」「他大学との情報交換が参考になった。」などの声があり、少人数で特定のテーマについてじっくりと議論するという企画趣旨に沿った取り組みとなりました。(参加者総数54名)

◆ 2012年11月17日(土)13:00～17:00

内容 「高等教育政策の読み方」ワークショップ

講師 白井 俊(文部科学省 高等教育局 大学振興課 課長補佐)

◆ 2012年12月1日(土)13:00～17:00

内容 「教学マネジメント」ワークショップ

講師 石坂 和幸(立命館大学 教育学部 次長)

◆ 2012年12月15日(土)13:00～17:00

内容 「学生支援」ワークショップ

講師 梅本 直(京都外国語大学・京都外国語短期大学 学生相談室 専任カウンセラー・インテーカー)

◆ 2012年12月22日(土)13:00～17:00

内容 「職場活性化」ワークショップ

講師 安田 弘(関西生産性本部 経営革新部長・経営コンサルタント)

◆ 新任教員FD合同研修

2012年度新任教員FD合同研修として9月15日(土)、16日(日)に「プログラムA」を3月9日(土)、10日(日)に「プログラムB」を実施いたしました。講師からの話題提供講演に続けてグループワークを実施し、賑やかで充実した研修となりました。

プログラムA

◆ 2012年9月15日(土)

第1部	内 容	FD・大学教員のキャリア開発
	講 師	林 久夫(龍谷大学 教授)
第2部	内 容	授業デザインのための基礎知識・ワークショップ
	講 師	安岡 高志(立命館大学 教授)

◆ 2012年9月16日(日)

第1部	内 容	学習支援・特別支援のための基礎知識・ワークショップ
	講 師	村田 淳(京都大学 障害学生支援室コーディネーター)
第2部	内 容	学習者中心の授業運営の基礎知識・ワークショップ
	講 師	梶川 裕司(京都外国語大学 教授)

プログラムB

◆ 2013年3月9日(土)

第1部	内 容	京都の大学・大学のまち京都
	講 師	椿本 善規(大学コンソーシアム京都 副事務局長)
第2部	内 容	授業設計のためのワークショップ
	講 師	川面 きよ(大学コンソーシアム京都 専門研究員)

◆ 2013年3月10日(日)

第1部	内 容	授業実践ワークショップ
	講 師	丸月 勝博(同志社大学 教授)
第2部	内 容	成績評価のための基礎知識ワークショップ
	講 師	丸月 勝博(同志社大学 教授)

◆ 京都FDer塾

当財団の加盟校においてFD活動のリーダーとなる教職員を養成するため、各大学・短期大学のFD委員会メンバーやFD担当者である教職員を主な対象としてワークショップ形式の勉強会を行っています。2012年度は、学生の多様化が進むなかで多くの大学・短期大学において喫緊の課題となっている「学生支援・学修支援」をメインテーマに、以下の通り実施しました。

◆ 2012年11月12日(月)

テ ー マ	学生支援・学修支援～学生の学びを伸ばす学生支援とは～
講 師	長谷川 岳史(龍谷大学 大学教育開発センター長/経営学部 教授)

◆ 2012年12月10日(月)

テ ー マ	学生支援・学修支援～学生の学びを支える学修支援とは～
講 師	福井 寛(大谷大学・大谷大学短期大学部 学生支援部学生支援課 課長) 浜口 淳子(大谷大学・大谷大学短期大学部 学生支援部 学生支援課)

◆ 2013年1月26日(土)

テ ー マ	FDシンポジウム「今必要な学生支援・学修支援とは？」	
基調講演	川島 啓二(国立教育政策研究所 総括研究官)	
基調報告	杉江 征(筑波大学 保健管理センター准教授、日本学生相談学会 常任理事)	
加盟校事例発表	キャリア支援	廣瀬 洋(京都経済短期大学 学生支援課 教務学生係 係長)
	学習支援	鹿野 博志(同志社大学 学習支援・教育開発センター 教育企画係 係長)
	ピア・サポート	齋藤 信夫(京都外国語大学 学生部厚生課 課長)



◆ 第18回FDフォーラム

大学コンソーシアム加盟大学・短期大学のFD活動に関する情報交換ならびに京都のFD活動の発信、全国の優れたFD実践に学ぶことを目的として、第18回FDフォーラムを開催しました。今回は初めての試みとして加盟大学・短期大学からのエントリーによる「ポスターセッション」も実施しました。

【開催日程】 2013年2月23日(土)13:00～17:10、2月24日(日)10:00～15:30

【開催会場】 立命館大学衣笠キャンパス

【開催テーマ】 学生が主体的に学ぶ力を身につけるには

◆ 2月23日(土)シンポジウム

第1部	テ ー マ	主体的な学びを支える仕組み
	シンポジスト	濱名 篤(学校法人濱名学院 理事長・関西国際大学 学長) 荒瀬 克己(京都市教育委員会 教育企画監) 福田 直史(高知工科大学 総務部長)
	コーディネーター	高橋 伸一(京都精華大学 人文学部教授 共通教育センター長)
第2部	テ ー マ	学生とともにすすめるFD
	シンポジスト	木野 茂(立命館大学 共通教育推進機構 教授) 梅村 修(追手門学院大学 教育研究所 所長) 村山 孝道(京都文教大学 教務課 係長、FD委員会委員、FSDプロジェクトメンバー) 山内 尚子(京都産業大学 学長室) 立命館大学 学生FDスタッフ、追手門学院大学 学生FDスタッフ、京都文教大学 FSDプロジェクトメンバー、京都産業大学 学生FDスタッフ
	コーディネーター	耳野 健二(京都産業大学 法学部 教授・学長特命補佐)

◆ 2月24日(日)分科会

第1	テ ー マ	「成績評価」から見る大学教育
	報 告 者	西垣 順子(大阪市立大学 大学教育研究センター 准教授) 松尾 徳朗(産業技術大学院大学 情報アーキテクチャ専攻 教授) 山本 寿(同志社女子大学 教育・研究推進センター/生活科学部 食物栄養科学科 教授)
	コーディネーター	坂井 岳夫(同志社大学 法学部 助教)
第2	テ ー マ	キャリア教育の現状と課題
	報 告 者	鬼塚 哲郎(京都産業大学 文化学部 教授) 木村 堅一(名城大学 国際学群 教授) 澤田 辰雄(株式会社リアセック キャリア教育推進グループ) 宮嶋 恒二(京都学園大学 就業力育成センター 主査)
	コーディネーター	尾崎タイヨ(京都学園大学 経済学部 教授)
第3	テ ー マ	学生による授業アンケートの現状と課題そして発展へ
	報 告 者	井下 理(慶應義塾大学 総合政策学部 教授) 功刀由紀子(愛知大学 地域政策学部 教授/元副学長) 関内 隆(東北大学 高等教育開発推進センター 副センター長/教授) 田中 岳(九州大学 基幹教育院 教育企画開発部 准教授) 西川 鉦治(中部大学 大学教育研究センター 次長)
	コーディネーター	長谷川岳史(龍谷大学 大学教育開発センター長/経営学部 教授)
第4	テ ー マ	大学教育と学生生活におけるSNS(social networking service)の光と影
	報 告 者	村上 正行(京都外国語大学 マルチメディア教育研究センター 准教授) 大塚 成男(千葉大学大学院 人文社会科学部 准教授) 日下 修一(獨協医科大学大学院 看護学研究所 准教授) 学生(京都橋大学)
	コーディネーター	河原 宣子(京都橋大学 看護学部 教授)
第5	テ ー マ	多言語教育の現状と将来
	報 告 者	小池 誠(桃山学院大学 国際教養学部 教授) 円谷 恵(国際基督教大学 事務局長) 吉田 泰謙(関西外国語大学 国際言語学部 准教授)
	コーディネーター	遠藤 央(京都文教大学 総合社会学部 教授)
第6	テ ー マ	「アウェイ」で教える教養科目
	報 告 者	大野木啓人(京都造形芸術大学 副学長/教授) 谷垣 岳人(龍谷大学 政策学部 講師) 中嶋 一憲(兵庫県立大学 環境人間学部 准教授)
	コーディネーター	畑田 彩(京都外国語大学 外国語学部 講師)
第7	テ ー マ	学生間の協同的学習を促す授業方法
	報 告 者	古庄 高(神戸女学院大学 文学部 教授) 西園 貞子(大阪医科大学 看護学部 講師) 山田 和人(同志社大学 PBL推進支援センター長/文学部 教授)
	コーディネーター	西村 美紀(大谷大学短期大学部 講師)

第8	テ - マ	入学前教育の現状とその効果の検証
	報告者	山本 由紀(松本大学 キャリアセンター) 森下 昌彦(京都府立城陽高等学校 進路指導部長) 棕本 洋(大学コンソーシアム京都 高大連携推進室/立命館大学 理工学部 講師)
	コーディネーター	葛城 大介(京都薬科大学 数学分野 准教授)
第9	テ - マ	ティーチング・ポートフォリオの組織的導入と活用
	報告者	皆本 晃弥(佐賀大学 大学院 工学系研究科 知能情報システム学専攻 准教授) 竹元 仁美(聖マリア学院大学 大学院 看護学研究科 准教授) 酒井 博之(京都大学 高等教育研究開発推進センター 准教授)
	コーディネーター	坂本 尚志(京都大学 高等教育研究開発推進センター 特定助教)
第10	テ - マ	学習支援における教職協働と第三の職種
	報告者	吉沢 一也(大阪体育大学 学習支援室) 国府田秀行(聖学院大学 学事局 大学学務部 ラーニングセンター) 中西 勝彦(京都産業大学 共通教育推進機構 キャリア教育担当)
	コーディネーター	耳野 健二(京都産業大学 法学部 教授)
第11	テ - マ	学部ゼミナール運営の課題
	報告者	毛利 猛(香川大学 教育学部 教授) 柴原 宜幸(日本橋学園大学 リベラルアーツ学部 人間心理学科 教授) 伏木田雅子(東京大学 大学院 学際情報学府 文化・人間情報学コース 博士課程)
	コーディネーター	廣瀬 直哉(京都ノートルダム女子大学 心理学部 准教授)
第12	テ - マ	高等教育で本当に「実践力」は身につくのか?
	報告者	山脇 正永(京都府立医科大学 総合医療・医学教育学 教授) 上原菜穂子(京都市教育委員会 京都市総合教育センター 教員養成支援室 指導主事) 松宮 孝明(立命館大学 法科大学院 法務研究科 研究科長) 青谷 正妥(京都大学 国際交流推進機構 国際交流センター 准教授)
	コーディネーター	村田 利裕(京都教育大学 教育学部 教授)
第13	テ - マ	学生の縦のつながりを活かした学生支援
	報告者	高橋 伸一(佛教大学 社会学部 公共政策学科 教授) 学生(社会学部 支援上回生) 池田佳奈子(お茶の水女子大学 情報基盤センター アカデミック・アシスタント) 森川 園子(国際基督教大学 教務部 アカデミック・プランニングセンター) 学生(ピア・アドバイザー) 小貫有紀子(九州大学 教育改革企画支援室 特任助教)
	コーディネーター	林 悠子(佛教大学 社会福祉学部 講師)



シンクタンク事業(未来の京都創造研究事業)

2012年度に新たに取り組むこととなった5件の調査・研究テーマの中間報告会を実施しました。各研究代表者からの報告後、活発な質疑応答が展開され、今後の調査・研究を進めていくうえで大変有意義な場となりました。

【日時・場所】 2012年11月1日(木) 18:00~20:00 キャンパスプラザ京都
【発表課題】

四地域を通して考える地蔵盆 ~世代間の伝承構造と地域コミュニティでの機能~ (指定課題)	真下 美弥子 (京都精華大学 人文学部 教授)
地蔵盆の運営実態と地域のレジリエンス向上に果たす役割に関する研究(指定課題)	前田 昌弘 (京都大学大学院 工学研究科 研究員)
修学旅行の訪問先が大学進学に与える影響の分析と大学の魅力発信の方策 ~修学旅行生および大学在校生に対するアンケート分析等を事例として~(指定課題)	井上 学 (平安女学院大学 国際観光学部 准教授)
二条駅周辺の再開発とまちづくり ~「立地創造」の視点から~(自由課題)	加藤 政洋 (立命館大学 文学部 准教授)
京野菜(地場農産物)でつながる洛中洛外ネットワーク: 地産地消の過去・現在・未来(自由課題)	三俣 延子 (同志社大学 経済学部 助教)

なお、2013年度の調査・研究の募集は4月下旬~5月下旬を予定しています。ご興味のある方は是非、当財団ホームページをご覧ください。

第8回政策系大学・大学院研究交流大会 「京都から伝えよう学生の想い」

この大会は、京都の政策系学部または研究科を持つ大学を中心とした学部生・院生の発表機会を提供するとともに、教員を含めた研究交流をはかる場として8回目の開催となりました。大会当日、学生はもちろん実際の行政の現場で働かれている方や一般社会人の方も交えて、日頃の研究に関するプレゼンテーションが行われました。

【開催日程】 12月2日(日) 10:00~19:00

【開催会場】 キャンパスプラザ京都

【発表数】 76組(口頭発表46、パネル発表18、行政パネル展示12)

【参加者数】 317名

【受賞者】 26名

【受賞テーマ】

◆ 京都府知事賞(口頭発表の部)

フランスの既存市街地整備事業にみる都市環境改善策の展望	石山 大晃(立命館大学)
木質バイオマスを活用したエネルギー創出による地域活性化策	茂箆 秀敏(京都府立大学大学院)

◆ 京都市長賞(口頭発表の部)

過疎のイメージを変える創造的過疎	北村 公一(龍谷大学)
堅田地域におけるまちづくり観光の意義と課題	中島 智(同志社大学大学院)

◆ 大学コンソーシアム京都理事長賞(パネル発表の部)

タイにおける持続的なエビ養殖に関する研究	佐藤 陽(立命館大学)
幸せの動物園	金澤 徹(龍谷大学大学院)

◆ 日本公共政策学会賞(論文の部)

京都市財政健全化のための方策について	谷上 直也(京都文教大学)
電気自動車の普及に向けたインフラ構築	藤井 涼太郎(京都橋大学大学院)

【学生交流企画】「地域コミュニティといじめ問題」に関する講演とディスカッション

学生交流事業部

2012年度の試みとして、学生自身がPDCAサイクルを意識的にまわし、学生スタッフの育成を図れるように振り返り会を京都学生祭典、京都国際学生映画祭実行委員の学生を対象に実施しました。ただイベントを実施するだけでなく、各個人が各事業のプロジェクトを通して学んだことや気づいたことを言語化することで、「学び」「気づき」をより身のあるものにしていきます。また、事前と事後に社会人基礎力アンケートを実施し、どれだけ各ポイントに対して意識が変わったかをチェックすることで自己に還元します。



学生対象短期留学プログラム

2012年度学部学生対象短期留学プログラムとして、オーストラリアメルボルンのディーキン大学、ラトロープ大学、スインバーン工科大学、ビクトリア大学でプログラムを実施し、加盟大学8校から合計23名の参加がありました。

プログラム名	開講大学	派遣先・派遣日程
龍谷大学国際文化学部企画短期留学	龍谷大学	オーストラリアメルボルン (5大学付属英語学校からの選択制) 2013年2月13日~3月17日(33日間)



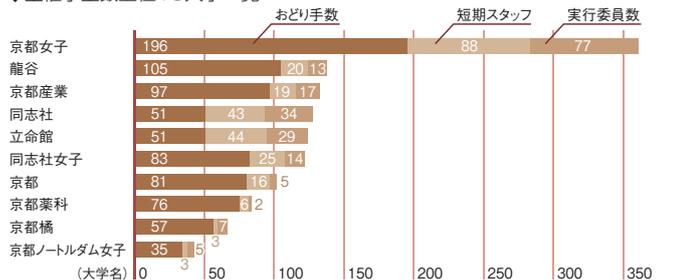
京都学生祭典

京都のまちを活性化しながら、その魅力を全国・海外へ発信していくというミッションを背負い、プロジェクト方式で年間を通じた活動が行われている京都学生祭典。多種多様な人との関わりや経験から得られる「学び」や「気づき」の機会を活用し、主体である学生たちが「社会人基礎力」や「就業力」を獲得できるよう、オール京都（経済界、行政、地域、学生、大学）が一丸となって「大学のまち・京都」をリードする学生を育成しています。



【開催日程】 2012年10月7日(日) 11:00~21:30
 【開催会場】 平安神宮・岡崎公園一帯
 【来場者数】 180,000人
 【主催学生数】 45大学7大院1短大3専修学校 1,524人

◆主催学生数上位10大学一覧



京都国際学生映画祭

京都国際学生映画祭は、京都の学生が主体となって企画・運営を行う日本最大の国際学生映画祭です。国内外の学生映像作品の募集・審査を行い、企画立案から当日の上映、授賞式の運営に至るまで学生実行委員の手づくりあげます。さまざまな企画をとおして、制作者同士や観客との交流の場を数多く設け、互いに触発できるようなプログラムを実施しています。2012年度は「京都を拠点とする映画祭としての意義」「応募作品増加」「来場者数増加」という目標を追求し、いずれも成果を上げることができました。



【開催日程】 2012年11月17日(土)~23(金)
 【開催会場】 京都シネマほか
 【来場者数】 1,010人
 【主催学生数】 8大学 20人
 【作品応募数】 22カ国362作品(国内235 作品・海外127 作品)

芸術系大学合同作品展 ArtsBar2013~京の創造~

「芸術」をもっと親しみやすく、もっと興味を持っていただくために、京都地域の大学生が実行委員となり芸術大学に関する情報発信や学生合同作品展を開催しました。より市民の皆さま方が芸大生の作品や感性に触れる機会になるよう京都駅前地下街ポルタを会場にし、多くの会話も生まれました。



【開催日程】 2013年3月13日(水)~3月20日(水・祝)
 【開催会場】 京都駅前地下街ポルタ
 【主催学生数】 5大学 12人
 【作品展示数】 10~15作品

総務・広報部事業

勤労学生表彰・奨学金事業

人物・学業とも他の学生の模範となる学生で、学費や生活費をアルバイト及び奨学金等に頼り、家庭からの援助が皆無に近い学生や、京都地域の社会活動で著しく貢献した学生を表彰し、奨学金を給付しました。

【対象学生数】 18名

京都地域留学生住宅支援制度

京都地域留学生住宅支援機構加盟大学が、制度に賛同する協力事業者と協力して留学生を支援する制度であり、連帯保証人がいない京都地域の留学生が「連帯保証人不要」で住宅確保ができるように支援しています。

【2012年度利用学生数】 79名(2013年2月13日(木)現在)

教育事業部

京(みやこ)カレッジ(生涯学習)事業

2013年度の京都力養成コースは、8科目を開講します。8科目の中には、大学コンソーシアム京都から、京都学講座「みやこの表象(すがた)ーデザインされた都市(まち)」を開講します。この講座は、京都の文化、歴史が深く学べる全10回のリレー講義で、1講座ごとに完結する内容です。1講座ごとの受講もできますので、ぜひ聴講してください。

【開催日時】 2013年5月25日(土)~11月2日(土)
 10時50分~12時20分

【会場】 キャンパスプラザ京都4階 第2講義室
 【受講料】 大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の正規学生(大学院生・専攻科生除く)の場合は無料。受講当日、要学生証の提示。

講義スケジュール

開講日	テーマ	講師名	所属
5月25日(土)	古地図	上杉 和央	京都府立大学 文学部 准教授
6月1日(土)	音楽	太田 道宏	関西フィルハーモニー管弦楽団
		橋 茂	近畿大学講師
		南村知佐恵	日本音楽審議会認定講師
6月8日(土)	工芸	並木 誠士	京都工芸繊維大学 工芸科学研究科 教授
6月22日(土)	古写真	村上 忠喜	京都市文化市民局 文化芸術都市推進室
7月13日(土)	映画	雷田 美香	立命館大学 映像学部 准教授
9月7日(土)	伝統芸能	茂山 正邦	大蔵流狂言師
9月21日(土)	遊戯	上田 恒弘	蹴鞠保存会理事長
10月5日(土)	文学	有田 和臣	佛教大学 文学部 教授
10月12日(土)	絵画	鋤柄 俊夫	同志社大学 文化情報学部 教授
11月2日(土)	建築	山崎 正史	立命館大学 理工学部 特任教授



高大連携事業部

京都ワンキャンパス

「大学のまち・学生のまち 京都」には、京都の大学の講義を受講できる「単位互換制度」や、大学を越えて学生が交流する「京都学生祭典」など、他地域にはない魅力と楽しさがあります。その魅力を全国の高校生や保護者に伝えるために京都の大学・短期大学が一丸となり、「京都ワンキャンパス」として全国に広報展開しています。



日程	都市	会場
2013年7月6日(土)	東京	東京国際フォーラム
2013年7月14日(日)	大阪	コングレコンベンションセンター
2013年7月15日(祝・月)	名古屋	吹上ホール

詳しくは、公益財団法人 大学コンソーシアム京都 (<http://www.consortium.or.jp>) を参照してください。

京都の大学「学び」フォーラム2013

2013年度も京都と滋賀の2会場において、京都地域を中心とした高校生や保護者、高校の先生方を対象に京都の大学の特色ある模擬講義や体験型講座、大学の個別相談等を実施します。例年、参加した高校生からは「大学選びの参考になった」「講義内容が非常に面白く、大学で勉強したくなった」「今後の進路に役立った」など高い評価をいただいています。



滋賀会場

立命館大学

びわこ・くさつキャンパス

2013年6月9日(日)
10:00~14:00

京都会場

龍谷大学

深草キャンパス

2013年10月26日(土)
9:00~15:00

- ◆ 模擬講義
- ◆ 体験型講座
- ◆ 理工系施設見学ツアー(滋賀会場のみ)
- ◆ 教えて先輩!~これが京都のキャンパスライフ~
- ◆ Kyotoカタリ場
- ◆ キャンパスライフ紹介コーナー
- ◆ 入試対策講座
- ◆ 大学別相談ブース
- ◆ 保護者対象講座
- ◆ 高校教員対象講座

学生交流事業部

第11回京都学生祭典

大学の枠を越えた京都の学生の力を集約し、経済界・行政・地域・大学と連携を図った上で「学生のまち 京都」を社会へ発信し、さらに京都地域の活性化に繋げ、新しい魅力を創出することを目指しています。10月に平安神宮・岡崎公園一帯で開催される本祭に加え、地域交流活動等の継続した活動を行っています。

開催日 2013年10月13日(日)

会場 平安神宮・岡崎公園一帯



新実行委員を募集中

企画立案から協賛、広報、当日の運営など学生が経済界・行政・地域・大学と連携して活動しています。昨年度の学生参加者は45大学7大学院1短期大学3専修学校 1,524人にもものほり、大学の垣根を越えて関わることができます。

詳しくはホームページをご確認ください。

<http://www.kyoto-gakuseisaiten.com/>

第16回京都国際学生映画祭

京都国際学生映画祭は学生が主体となり運営を行なっている日本最大規模の国際学生映画祭です。日本国内はもちろん世界中の学生から映画を募集・審査し、入選作品を上映するコンペティションプログラムを中心としており、その他にもさまざまな特別企画や連携企画を開催しております。映画のジャンルや国籍、年齢を超えた交流の場となることを目指しています。

開催日 2013年11月16日(土)~11月23日(土)(予定)

会場 未定



新実行委員を募集中

企画立案から協賛、広報、当日の運営など学生が行政・経済・大学・地域と連携して活動しています。国際交流をしたい。語学能力をいかにしたい人も大歓迎です。詳しくはホームページをご確認ください。
<http://www.kisvf.com/>

京都学生芸術普及事業(Art's Bar)

京都地域には12の芸術系大学があり、各大学にて卒業制作展、進級制作展、学生の個展など様々な制作展が数多く開催されています。そこで、展覧会情報の発信、芸術に関するイベントの開催など京都地域の芸大生の作品や感性に触れる機会をつくることにより、府民・市民の皆さまに芸術・文化に対する興味・関心を持っていただき、制作展への来場者、府民・市民との交流や作品発表の場を増やします。

開催日 2014年3月中旬(仮)

会場 未定



新実行委員を募集中

企画立案から広報、当日の運営など学生が行政・大学と連携して活動しています。芸術イベントの企画立案に興味のある方は大歓迎です。詳しくはホームページをご確認ください。

<http://www.consortium.or.jp/link/artsbar2012.html>

キャンパスプラザ京都のご利用について

キャンパスプラザ京都(京都市大学のまち交流センター)は、京カレッジや単位互換の講義をはじめとする、京都市及び大学コンソーシアム京都の「大学のまち・学生のまち」京都の推進のための事業の拠点であるとともに、京都駅前の好立地に加え、AV機器等のクオリティが高い講義室・会議室等の使用料が大変リーズナブルとなっています。

今後とも、キャンパスプラザ京都を中核とした「大学のまち・学生のまち」の発展に向けて、皆様のより一層の御利用をお願いいたします。講義室の使用料等、詳しくはホームページをご確認の上、お申し込みください。

施設の空き状況は、当財団ホームページをご確認ください。
 受付9:00~19:00(火曜~日曜)
075-353-9111

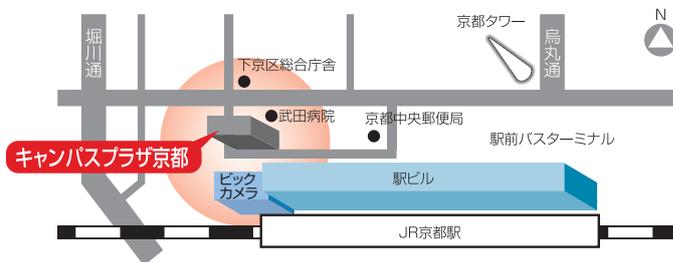


第1講義室	312㎡(5階/289席)
第2講義室	309㎡(4階/289席)
第3講義室	211㎡(4階/170席)
第4講義室	129㎡(4階/90席)
第1~4演習室	約50㎡(5階/30席)
第1会議室	166㎡(2階/63席)
第2会議室	100㎡(2階/38席)
第3会議室	97㎡(2階/38席)
ホール	194㎡(2階/着席80席)
和室	(2階/10畳)



 公益 大学コンソーシアム京都
 財団 法人 The Consortium of Universities in Kyoto

〒600-8216
 京都市下京区西洞院通塩小路下ル キャンパスプラザ京都
 TEL:075-353-9100 FAX:075-353-9101
 E-mail:koho@consortium.or.jp
 ホームページ:<http://www.consortium.or.jp/>



- ◆事業やイベント情報などの最新情報を随時アップデート
- ◆分科会・研修後に同テーマについての情報交換が可能
- ◆多くの高等教育関係者が集うコミュニティ

当財団のフェイスブックページが完成しました。
 「いいね!」をお願いします。

<http://www.facebook.com/consortium.kyoto>



大学コンソーシアム京都

検索



表紙の大学

京都造形芸術大学

芸術による国づくり「芸術立国」を理念に、ファインアート、現代美術、デザイン、アニメ、マンガ、映画、ファッション、建築、演劇、文芸、歴史遺産と、音楽以外の芸術分野全般をフィールドとする総合芸術大学。姉妹校である東北芸術工科大学と合同で社会人に向けたアートの学び舎「芸術学舎」を東京と大阪で運営するほか、平成25年4月には京都芸術デザイン専門学校、京都文化日本語学校と法人を統合し、新たなスタートを切ることとなった。新スタートに伴いロゴを一新。ロゴデザインは佐藤卓デザイン事務所が担当した。



撮影:渡邊修